

川
手
紙

特 別
~5
6678
3





85
6678
3



秋


梅細やさみそにけりあまきつら
 沼山

きつねやうらうらふんぬ訪もさ
 冬遊

松の影の人まうとせり子ねはな
 可イタタ喜

散る身もあまの秋やまののち
 為静

あまのゆふのうらなむのゆふ
 梅雪

山まふりすのうらなむのゆふ
 瓢箪

まをるやうらなむのゆふ
 瓢十箪

まをるやうらなむのゆふ
 花居

まをるやうらなむのゆふ
 梅村

まをるやうらなむのゆふ
 為宮

まをるやうらなむのゆふ
 為作

野ふりすのうらなむのゆふ
 為村

上懸二家二家五半一山



梅乃身名を笑ひてもねりて 宇天

とんや物多しやね子笑ふのさき 雲浪

梅あさりやかやのな 松の内 花雪

てりてうはきや梅み名れみ 花酔

下なわたり梅の多梅や難着候 梅橋

屋分うは虎直しちりやと梅おる 梅台

梅もまた一あや梅のしら 黄女

おのほりて年つゆもさう梅の内 ヤマト 魚笑

さうや國のゆゑのたつ梅のう 空 由所

物あもも鹿の工まやまのち カウチ 山乐

二日あももあふうされり 梅 手智

梅さうらやほり梅流の梅さう 梅さう

丙言乃乃まき

新編 浮城人 通

後見

あふ葉はく
山くはなつと
たつ子く

招ひはく
くううと後茶州
光子

初をて引居るや生駒の初うは
まもすくをた染や急姑梅
おふふは是かうされとま乃骨
月人

あめ乃くはひと言々う梅まひ
明徳のうまくまき皆乃茶の我ふふ
下徳
勢歩

とくくと梅さうふあめ後茶州
おふたれもきく幼翁のうはひ
森くふんはく時ま乃風
和山
那本
柳枝

ま風や波ふくまふ
あつハ嬉く
ま子ゆく後茶路と嫁う君
都々
梅人
石叟
可庭

出典乃書



清友一社不
物一乃
家之世告之

名も形き
一乃の重なる哉
治
有之節

濠洲之不勢乃
安申之在様そ一也
回乃 也

月人
り乃好
こつる
さつる也
今乃の字

浪
飯田
花

魚女



あへんこちまのこの

なやまき柳

梅景

とびやりのあのおと

都日やうきうれ

飛六次 雨路丸

うきうきうきうき

うきうきうきうき

十雨

うきうきうきうき

うきうきうきうき

草居

川添の柳のうきうき

朧月樵技



初まややあやうきうきうき

晴うきうきうきうきうき

つらうきうきうきうき

つらのうきうきうきうき

つらのうきうきうきうき

まゐ見

其柿

車古

不二寺

路

らんらんらんらんらん

らんらんらんらんらん

らんらんらんらんらん

らんらんらんらんらん

らんらんらんらんらん

松や隣

穴窪歩

翠岩中

眉年

まゐ見

東野子



越前
布瑠

申刻
油

お新やほ連も
洋々

一しきうやまも
省丁

けい乃日和
晩香

碓氷の人々二日の
ト隣

うさねの
梅人

まそめやえ徳く一ツしめれ
鶴歩
公眠

湖をらんより連もあつねるの日
古槐

丙辰春

松嶺

百人 墨



新年や市を洗うりも御綾子

源 新

ナチめく 色よおまげの御貝

新 込

家毎よとてら 燈の雲むらん

松 嶺

丁飯ほく 鳥追ひを

嘉 嶺

さあめの松糸 磨む 穢れひま

逸

あゝとてけのひく 糸 寄

新

文とらと 忍ふとらう 二月ハ 思

嶺

草乃 ありもすり 糸 合の 舟

嶺

下 墨

みねの巾や ちほく 山乃 糸

松 嶺

さけの解さめを 来 恵た っ 文 哉

嘉 嶺

とらむ 石で 轉して

家やの 燈 くる ー さよ 伝 達 候

松 嶺

まなれとてとら ぬのを 松 柳

源 新



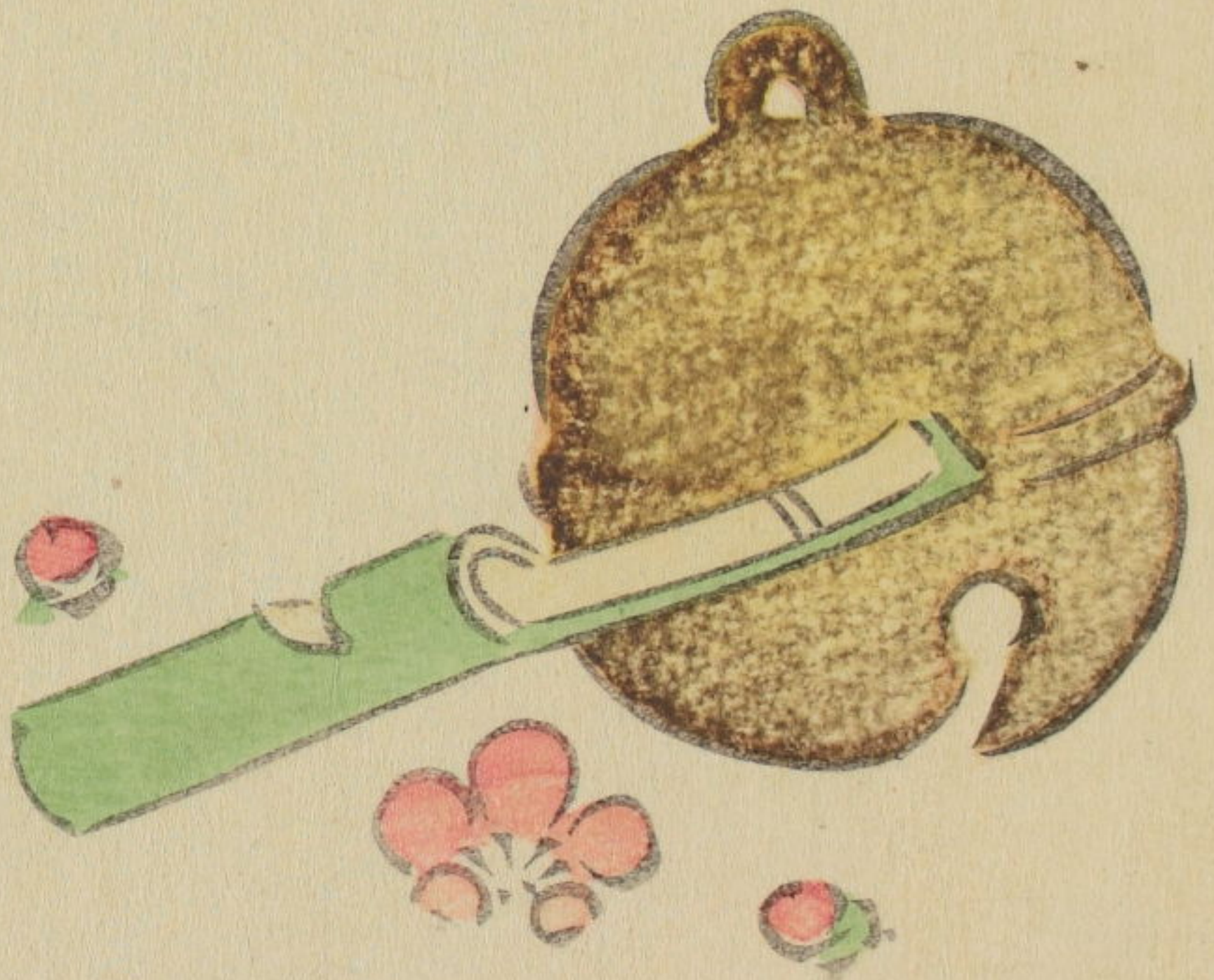
海ぬけく名月をやふれは
舟のりも世のまゝや人の画月
眉山

極楽の河をゆく。こゝろ乃月
月の世や海をたつた新の流
るる海やたつ海ある舟のまゝ
春園

陰をよと甲斐の山乃月
めまけをたつた月乃月
舟のりも世のまゝや人の画月
眉山

幅幅の図画をよやりのまゝ
名月やうたも七吹ぬよまけをた
火子も海をたつた月乃月
可也

若川 楓



こころの ちかみの
おぼえふりて

老のちかみめさる杖やささるうすさ 如楓

はるのいさかよふく門のつ 松 春歩

ふよる初る何の信あしたきて 南野

返るのちかみ 新ちかみさる 如舟

ちかみのよさこもささるあさ月の船 海舟

ゆめさしけさるあさあさるあさる 楓

余略

如楓子うすえおきさるて

あさるおぼえふりて

きよのちかみおぼえふりてさるのめ 如

四方をおす

吹り伸しそさるのちかみさるや梅のちかみ 如文

さるちかみ 如文

さるちかみさるさるさるのちかみ 如文

あさるさる

花よ喜れの時もま——桂苑
 む——ろ帳の横よひもまのまぶ
 落い日も思生れ氣のよき枯草うれ
 本う——の吹らりり岩のうへ
 山菜おや喜の物も予添拭巾
 葉たつる鼠のまのまきまわ杜家
 梅打垣を影をくうまをまを
 級けや常つる梅もまをまを
 炭竈の輝りつあや時をまを
 胡弓のまをまをまをまを
 修子くうりや川の川柳流し

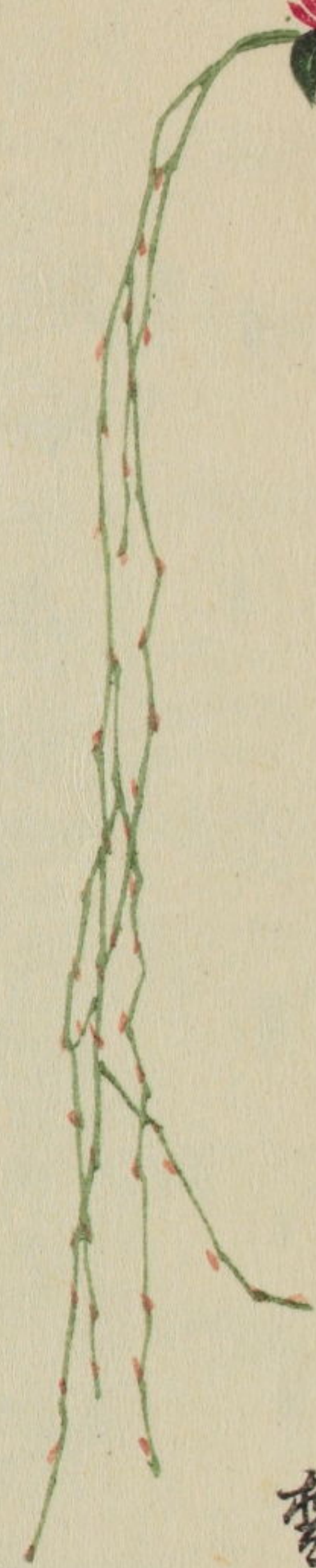
城兄 素屋 号室 島岬 宇綿 松朗 杜崎 知風 阿香 松雨 松水

新雪の折重るや花のまをまを
 まつ——障——の香もまのまを
 結仕香垣よまをまのまを
 華花のくうりまをまのまを
 碧る葉まをまのまをまを
 水香や梅のまをまのまを
 花よまをまのまをまを

本のとれてあつた時をのまを
 遠まや大根流ふあ——のまを

為のま





誓山
世



江戸の東より大出りし柳の柳 東京 三つ
 舞はんまはれりあるやとそこの碑 竹舎
 若き世の若かりのよせぬふこの山 秋田 大倉
 只の白と黒りまぬなり松 西京 九岳
 一むやまきくやうよまそり

江戸の東より大出りし柳の柳 流美
 やあ入の静しきなりやそこの上 松吉
 若き世の若かりのよせぬふこの山 一嘆
 只の白と黒りまぬなり松 芹糸
 一むやまきくやうよまそり 泉噴
 江戸の東より大出りし柳の柳 流美



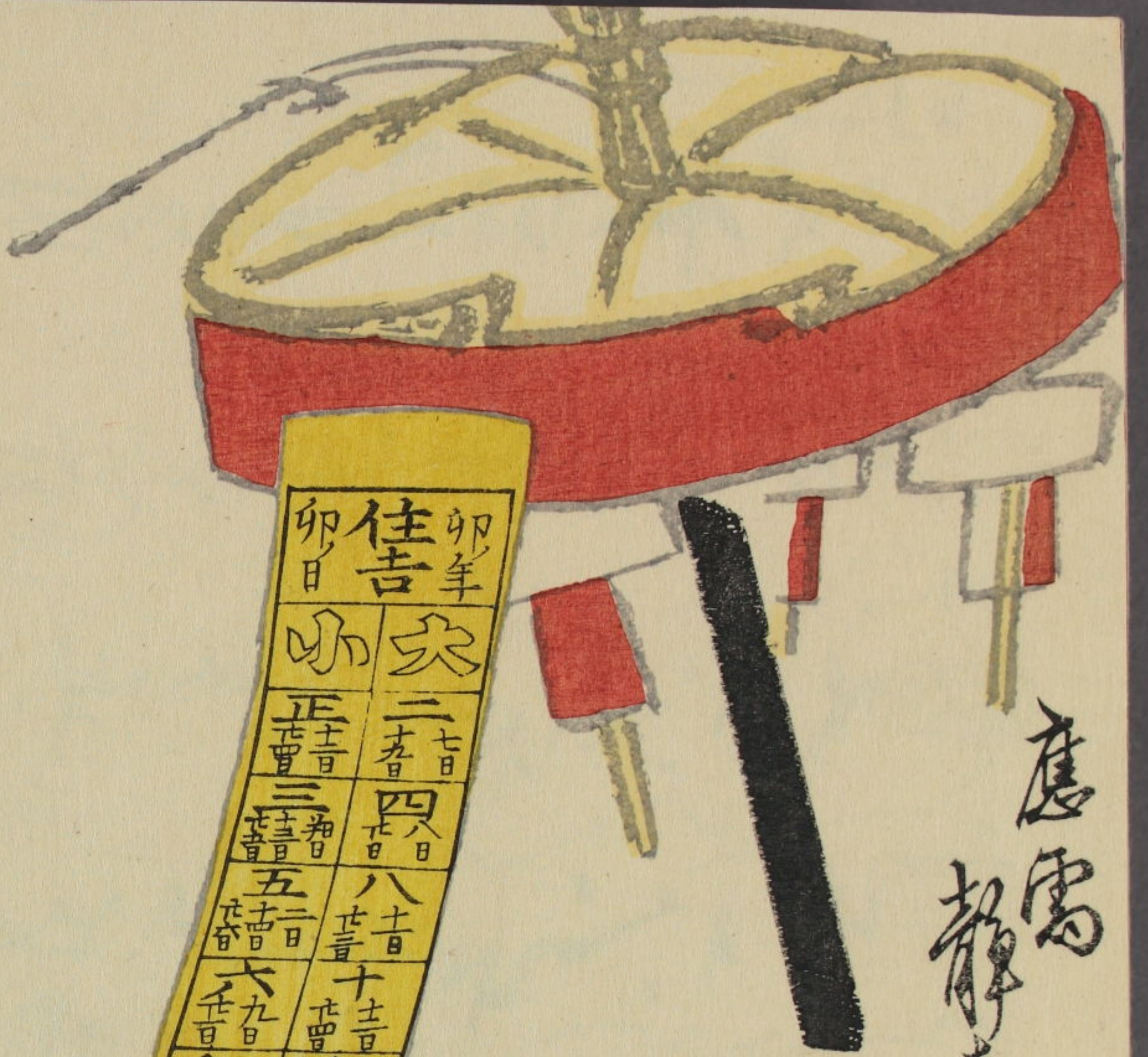
人老も木のうまもあけ初
乃一ひ寝報合や福壽草

初日
縮雲

初日うけ寝るを多の性来りぬ
報合もどしどし梅の少おたり
初夜やせむきハあつぬ顔
あつぬもあつぬ梅の日初
淡き雪のちとつもるや庭の雀
元りや何やら床手 産 玉
割 産 産 産 産 産 産 産
初夜やあつぬの世えきあつぬ
胎きりつとあつぬもあつぬ

井水
映松
一得
市汀
可静
玉屑
雲底
巻席
草歌

初一日



唐雷
静遠亭



卯日	佳吉	卯年
卯	大	二七
正	三	四
三	五	八
五	六	十
六	七	十一
七	九	十二
九	十	十三

情く福を修ぬ誠や相好く
 世路しきりしむらさき乃其心
 初命やも徒の修よかきと生
 林原かす中修ふとんと修りうね
 聖修しりはしとあま形も其業の
 中こそまの乃これとをを神かひ
 かくれくる娘ふ其すの猿の孫
 をかきぬ娘は業のまは小猿
 福らきとをくくる産や其の重
 年とまふそしてまよりまのぬ
 とも修やまの産おぬかより相
 唐雷の静遠亭は加の心
 一 唐

聖徳太子英玉名橋仙薬

秋吉



あつらひの梅も折せむ山の見
松尾

あつらひの梅も折せむ山の見
一水庵

あつらひの梅も折せむ山の見
奇亭

あつらひの梅も折せむ山の見
尾花

あつらひの梅も折せむ山の見
江戸の女

あつらひの梅も折せむ山の見
春風

あつらひの梅も折せむ山の見
梅一

あつらひの梅も折せむ山の見
秋山

あつらひの梅も折せむ山の見
春泉

あつらひの梅も折せむ山の見
春泉

あつらひの梅も折せむ山の見
春泉

あつらひの梅も折せむ山の見
春山

あつらひ

公雲尊



うねり子梅や 宇天

川のうねり

精進料理 杜海

碓のきくむえり

うねり中一此花をそそめくくくくく

そそりあはれきも時めくくくくくく

それくくくくくくくくくくくく

夕河原やそそりひくくくくく

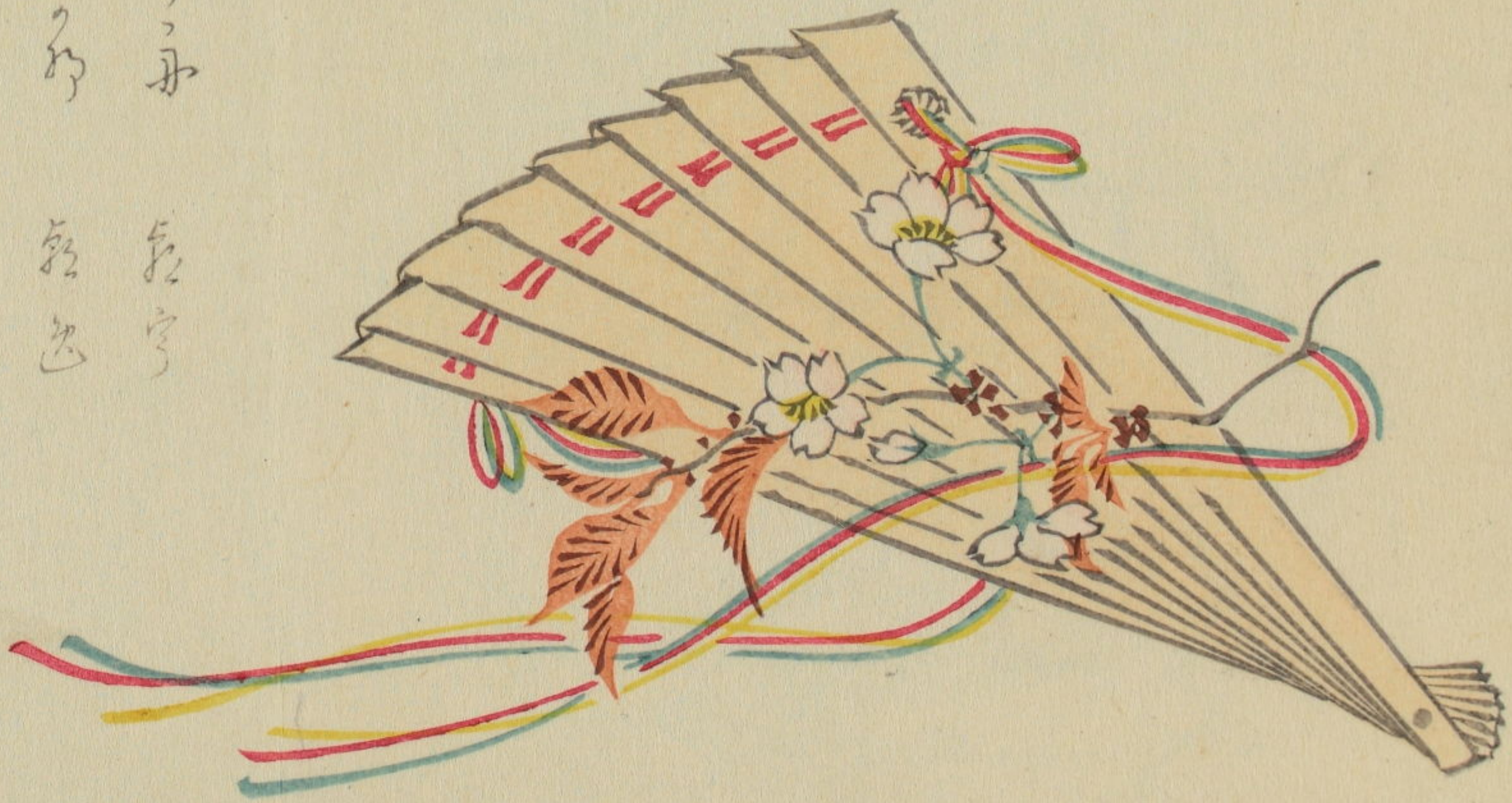
おこくくくくくくくくくくく

そりそりやあきくくくくくく

そりそりくくくくくくくくく

戦くくくくくくくくくくく

くくく





山あり海あり
 鳥居

舟あり橋あり
 城跡

松あり竹あり
 井水

池あり山あり
 塔

水あり月あり
 水

舟あり松あり
 秋

山あり池あり
 春

舟あり松あり
 山あり池あり

山



善堂宗匠寫

小園松人書



何ありと脚ふちく申んまの月雨^ラ象

まの月も勝りおのやうなま

騎路

遠周り負て喰傍さうふり

左路

梅折やうふおれそ新別染

市路

管の遠く魚り井小峰

車^{ニツク}六

和カワラ

菅里

湯の趣は折やに上のそり

蘭光

あ水やまのそり怪き井の車

菊^{サカイ}班

川も来るおや中 秋ふ落の巻

化壽

えれ藤を葉のつく空の中月と梅

鳥曉

里へちくま婦ふちりや門の松

花松

おそくう家丁まがらやまら燈一 新六

癸亥年

月夜の静けさ 月夜 字天

月夜の静けさ 月夜 漸水

月夜の静けさ 月夜 五線

月夜の静けさ 月夜 字天

月夜の静けさ 月夜 几堂

月夜の静けさ 月夜 久

下略

月夜の静けさ 月夜 漸水

月夜の静けさ 月夜 字天

月夜の静けさ 月夜 字天

月夜の静けさ 月夜 梅舟

月夜の静けさ 月夜 几堂

月夜の静けさ 月夜 五線

丁亥年

墨里



長水



心松のまじり
旬のやぶあり

豆おこ成等の
さややと一房

舟のゆくまの
舟の流るる

水信也の
そとまじり

うけらぬし
まじり

川下ハ移し
たいふんこ
二月あり

ねの肉のり
たの鳥

唐んじ
仕立

裾屋よ
名

草葉や内
九

とら

松のちりし

おのねりしりま 漱水

脊を接てふふのちりまら 漱水 漱水

あまやまゆのけり 船よま 千角

新をくま鞠おうやまのま 季末

雪のまてくまのままあ 里園

ちりまの首まゆまてくまの花 如柳

まかえる肉子 茶や福森草 佳境

まのまをさんて 結まら 漱水 雨舟

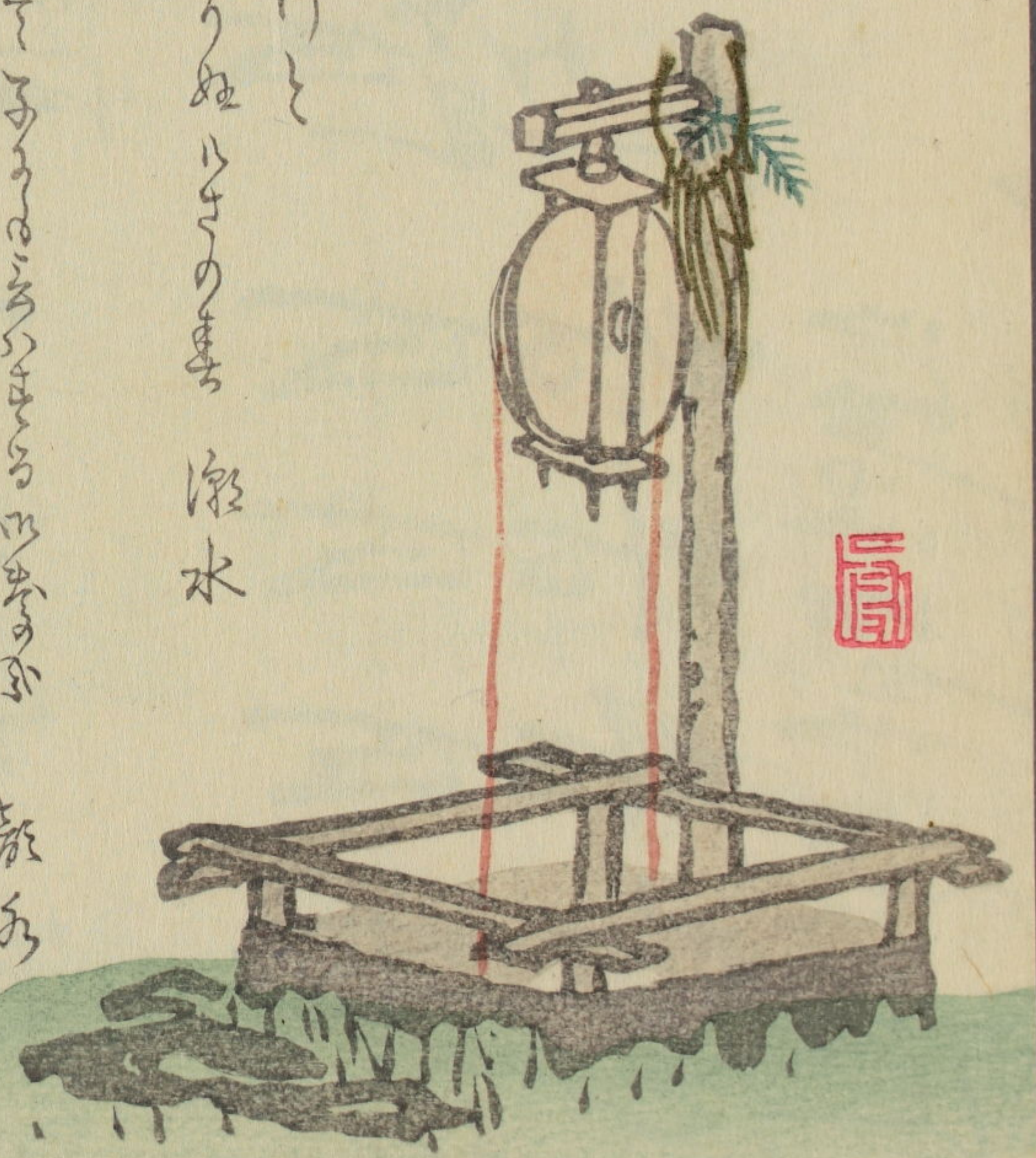
漱まてくま 十分 海て 初日の出 金九

おの 縁り 雪のくまや 晴まてくま 玉雉

雪の中ま 結る 水まや 春の雪 後丸

あまのやまの 鞠ま 新ま あり 踏舟

あまのやまの 鞠ま 新ま あり



Red square seal impression.

夜任雀圖



あけききえくさうまうさうさうさうさ
 かしらあさき水もさき梅柳
 かしらあさき水もさき梅柳

ハニコ
 柳崖
 春草
 春草

あさき日中あさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさき

ハナマ
 一鳳
 笠雅
 春草
 梅南

あさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさき

ナニ
 知風
 可彦
 杜鵑
 五藤

あさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさき

拾山
 拾山

内乃と

是舟や八幡も ^{十六} 潮も

とささけ経糸のあり

まのや陸子 ^{借后} 借物分
一さい木のむ

大より人より 新色

うらうらわや

引張り初ま

内のみ ^{西ノミヤ} 若松

福らうらう ^{シラヒ} 新色
折ふ折のき

栗津 ^{栗津} 牧洞

くわらねや ^{新色} 一色

廣田の ^{新色} 折うら先ね

人 ^{十六} 折のき

吾 ^吾 蘭ト

朝 ^{新色} 一色

うら ^{新色} 折のき

吉 ^{新色} 折のき

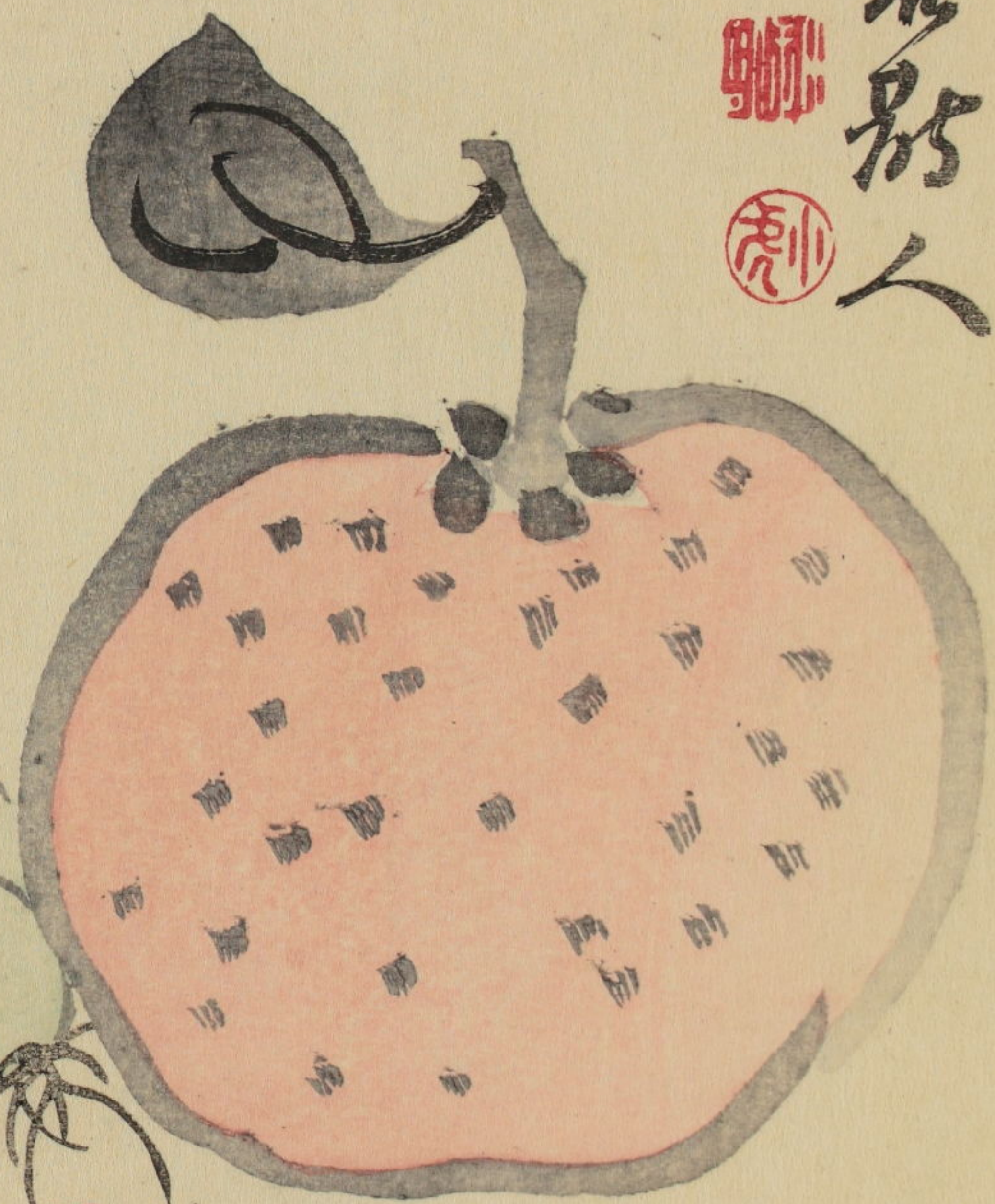
折 ^{新色} 折のき

新色

公成

司水

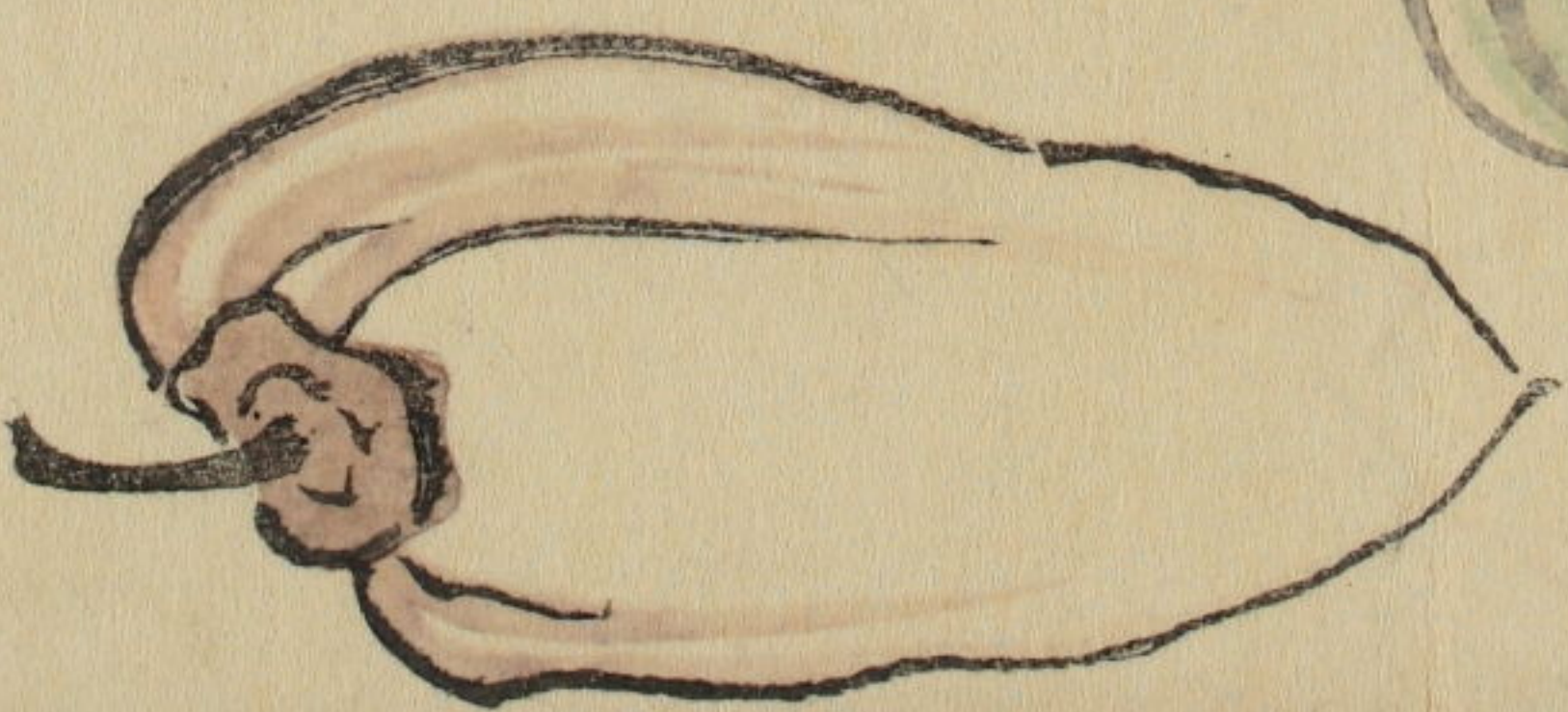
少室山人



石峰

知事あゆやまあををれて産ゆ物 日向好鳥
 やふ入るべきふささの鳥をぬく言葉 鳥仙
 うたささやこの日向のまき日 和快
 それう帰の答もく然し 福寿草 子多女
 晴まると無りふややうめ足連、一夜
 後ひ日よをれてささく 母のまよ 田丸
 茂あるとやくと答や 福寿草 子多女
 又あしをこれをも借つる月夜 十月月深
 降中よ日のさしこむやまらりそと
 和らうやまよまよとけるは若の初
 沼うちまをるる水やま合井戸
 まらうつや新くま病をる世の住
 うこをををうこををんく 男
 是まてとありおをるもやまの鳥
 新あめあひ振りし 松のうち
 えの月や山をぬくまこの鳥あらしけ
 身のまをるまをのうし 甲斐やまこの女
 まりゆのうくをゆれる 柳糸
 まや梅あまうりまこの下は葉
 大ふくやまをるまよまあまうり

鳥仙 和快 子多女 田丸 福寿草 十月月深 松の雅 一虎 古妻 仙仙 葉葉 如牛 湖電 柳糸 柳糸

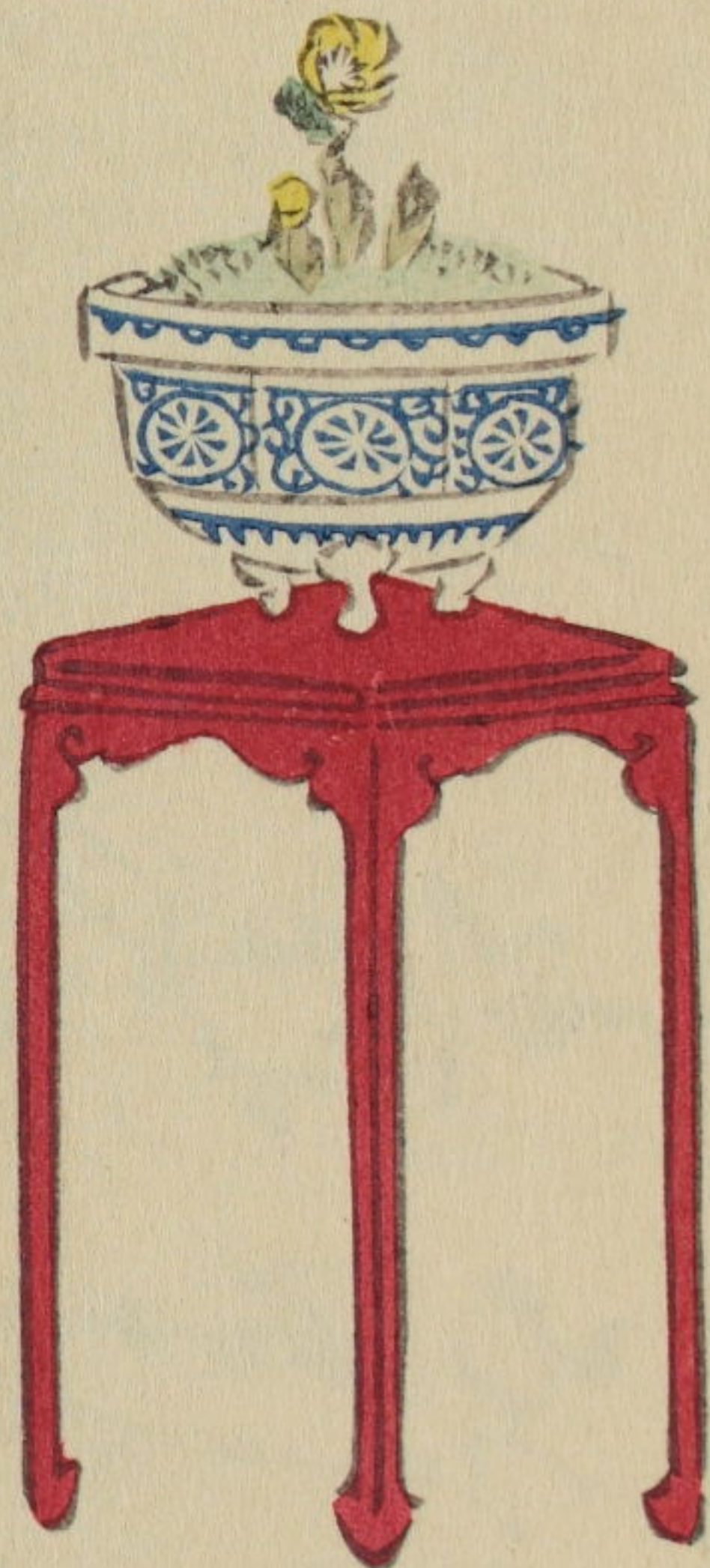


重城



東子子子

東居



菜肉者の多おきまて梅え系
 芝多や敷きまてふく系れ
 路く名の余ふくく一菜男
 とうりやういさや梅り手の候
 多ふゆのいすりくくえてまの
 えりくまてちひれ路く寸
 産身れま梅やうくくわのむ
 産来の系も余りくまて
 其れま梅やハ坂の上うり
 産おの川もく路く相前
 産之く産のくえぬま
 産や伐あぶくくか梅り

甲子

九凡 英之 芦 巴 製 子 石 中 風 池 水 危

八朝家と長首園

子若洲



けいけい... 舟の... 湖

... 舟の... 湖

... 舟の... 湖

... 舟の... 湖

子若洲の... 湖

笑人



萬葉や笑つるあつる 喜ぶ人 歎

五藤

お卯おも 籠まつきや ねろくも

騎勢

結ぶく 厨中や 笑梅丸一巻

梅泉

手梅や ねろくも 笑つるあつる

去震

藤おろくろり 笑つるあつる ねろくも

百作

又あつるあつる ちそ 藤藤の藤

善久

笑つるあつる ねろくも 笑つるあつる

孫也

人ねろくも 笑つるあつる ねろくも

指島

ちそ 啼や 向く ねろくも 笑つるあつる

海古

世蓬萊の 海を ねろくも 笑つるあつる

中丸

ひろくろくも 笑つるあつる ねろくも

末古

唯ちろくも 笑つるあつる ねろくも

公成

まふあ
茶



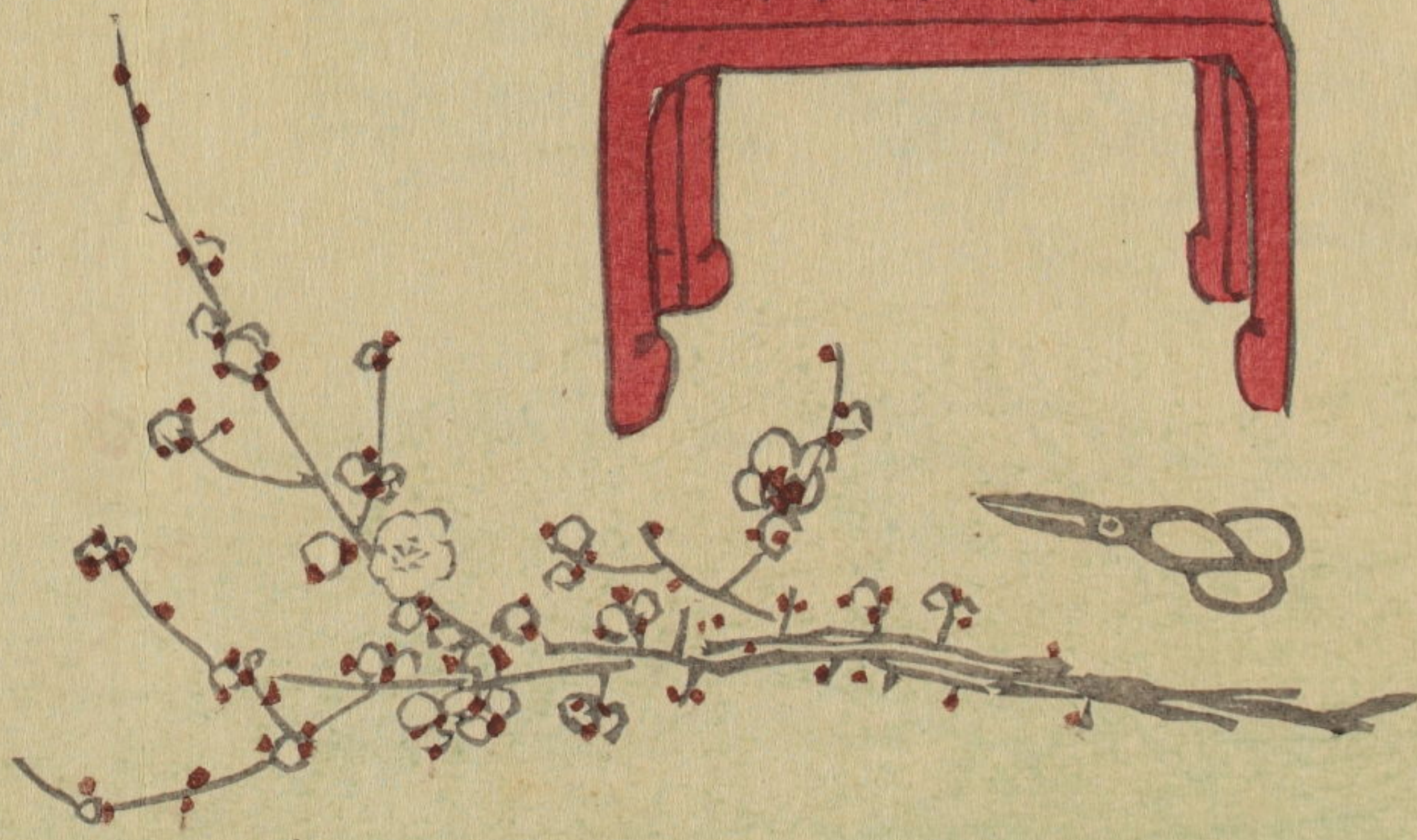
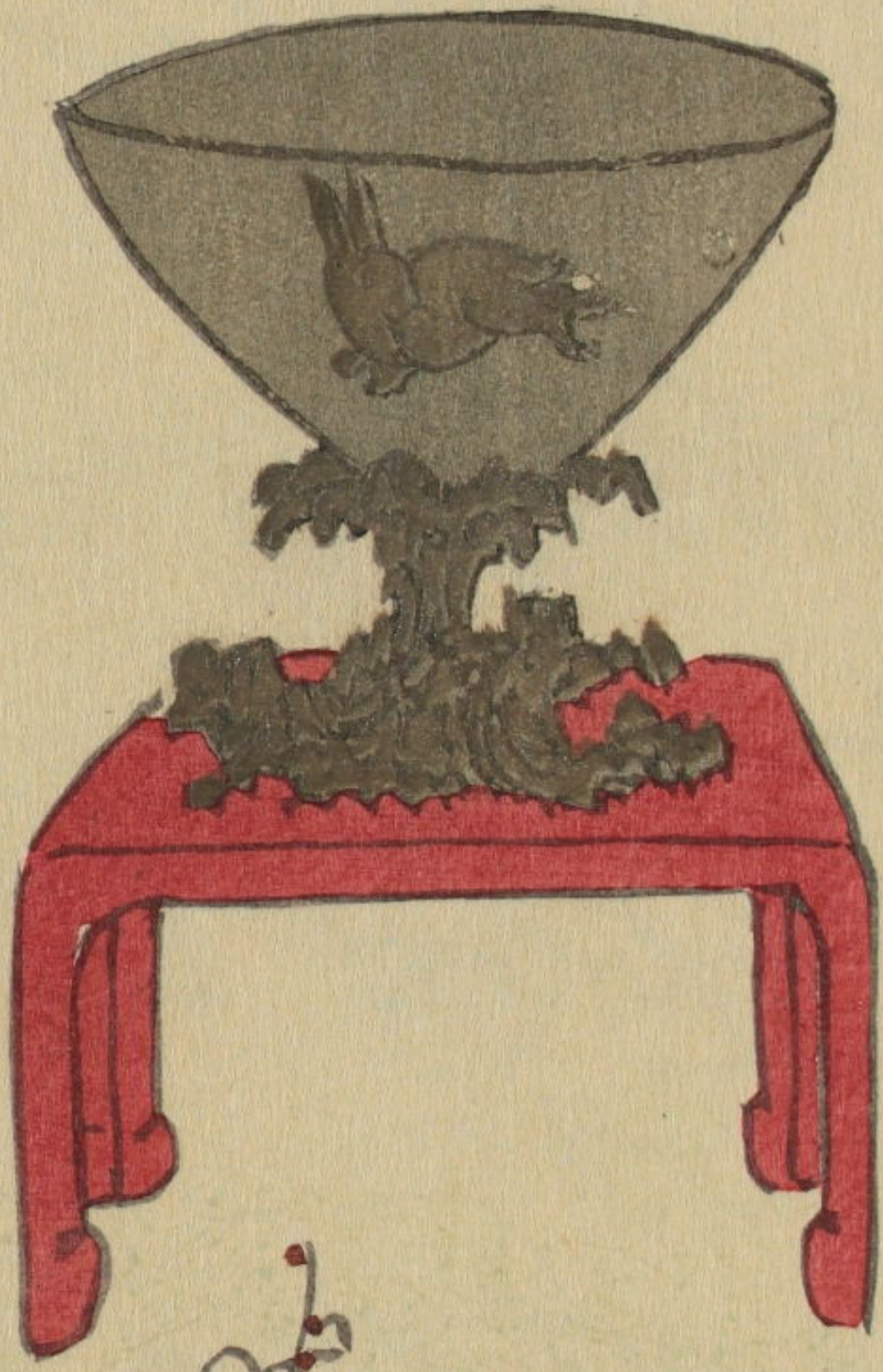
やいものこゝろ
月の夜に梅を

あのみくちりおふ影をほくくえのむ
と雲の降や梅のよの夜の影をほくくえのむ
くえのむくくえの影をほくくえのむ
あつたやけをの影をほくくえのむ
ゆよりの影をほくくえの影をほくくえのむ
影をほくくえの影をほくくえの影をほくくえのむ

あつたやけをの影をほくくえの影をほくくえのむ
あつたやけをの影をほくくえの影をほくくえのむ
あつたやけをの影をほくくえの影をほくくえのむ
あつたやけをの影をほくくえの影をほくくえのむ
あつたやけをの影をほくくえの影をほくくえのむ
あつたやけをの影をほくくえの影をほくくえのむ

雨の夜

善羽卒



白梅や金さの月の三由る朝
 物候や汐子まこ水まきる風
 家の世の定るを初日のゆ
 人着の止替るや初うらめ
 梅候やかく着るを初うらめ
 うらめは初返りの着る梅
 梅穿や入るる梅は初うらめ
 まるる梅の山を初うらめ
 一けりたる梅の山を初うらめ

松室 梅笠 竹笠 節 山 一 飛 其 嘗 湘 守
 室 笠 笠 竹 山 一 飛 其 嘗 湘 守

英一蝶之圖摸
墨



濡くく居くあるや東方の灯
 後川や笠をぬりす 柳 智一
 梅くくある葉をぬりす 市 二
 夕霞の又たつらき 春 生
 瑞子も毎喜 止んく 初 角
 雨りのゆんでちくく 小 人
 あくく人 滝 せねや 小 山
 んまくく 中 せりく 六
 舞 舞 女 羽 を 逢 守 行 や 遠 東 の 影

美水や軽きよ 阿 乃 波 ち 一
 ま 中 の よ 十 分 ち 一 心 ち 一 ち 一 ち 一 都

柳 要
 去 智
 市 二
 春 生
 士 角
 小 人
 小 山
 住 六
 素 陶
 井 登

百人一首



枝のよきまきとあつてまきー板角

もーとまきのひまや雪の危

おゆおちまき海をやそつあ

こいねそのまきかきんるる一板

雪のゆきまきのまきまきまき

あおのまきまきまきまきまき

うくひまきまきのまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

春遊

浪紫

漁藻

百可

瑠璃

東雲

竹金

木乳

梅宿

卓志

宦少

素屋

まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

二條御殿乃月の
御會子百され

林曹

古にき後好のうゆき

松の月

去向ハハ珍子一重

月の雲

淡竹

名月や三川の祿をまの袖

廣島

草吹やゆても燈の光

浪花

乃乃水や空隔るも月ゆり

石叟

○

あやのゆる月や

信後

島萩

あはれさきみよ水

再政三酉辰秋



宝引のてしやるまのまのきりぬ 瓢六
梅咲ぬ水かたつて 晴ふそく 前お
能くも梅ふん流る 春乃 雲 雲 雲

むうく 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲
梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃
梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃

梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃
七中乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃
梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃

梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃
梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃
梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃

梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃
梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃
梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃 梅乃

梅乃 梅乃 梅乃

梅乃 梅乃 梅乃

眉山



華更紅得
 深人




ようき 若東乃 うこひ 新 柿 さひ	子 乃 ひ 改 の	子 乃 乃 改 の	乃 乃 乃 乃 の	乃 乃 乃 乃 の	乃 乃 乃 乃 の	乃 乃 乃 乃 の	乃 乃 乃 乃 の	乃 乃 乃 乃 の	乃 乃 乃 乃 の	乃 乃 乃 乃 の
-----------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

甲子林



卯の志や汗の粒ぬくたてり
 涙ををひらくさ家やうらつら
 かくすは小笠の紐のゆるむとき
 冷くとも足踏をかりぬりこふ
 負産のあうつりちのきこふあふ
 牛の子やまのあふすれーまのや
 屋うちやりみまをるあいつて
 牡丹のこゝ一浪言きこてけうか
 りさうりやあうけをゆる水のき
 あうらあつちりあやふあゆか
 さーのそくあうりあき牡丹うふ
 子十日つくりりりや相のまれ
 家物やややり毎の晴りりり
 場場やまのせん投こおくらぬる

多難なくおふれけかー意の月
 船屋の内へも入るのゆるうや
 又て画の法もや掃ゆり物不
 たうくくあうりあや風の飛
 船うらうを船ハるうらうあふふ

己とー中夏

小洋 系石 艾多 柘府 鄭石 巴水 雪色 半吉 森雪 櫻月 露瓢 芙蓉 雲石

十三八
 碧中 船屋 松多 船水



梅梢



月さして代惜とくうり免のむ
 引たれをねあやうしき小ま川
 三つ別とまもあはしつうらま
 櫻をほ代とあはしつうらま
 山椒のむつうらま

梅 松 蕉 古
 梅 松 蕉 古

山椒のむつうらま
 何ゆもこころと新やう免のむ
 う免うやあぬのねくまはさぬ
 つくぬねのつうらま

山 退 梅 二
 山 退 梅 二

う免白あぬ上ゆうし
 消のむる望のゆえや
 ぬきつんねや梅乃む
 神そまやえんあはしつうらま
 ちをなうう免はくわうう免のむ
 ああ情このあぬなりぬ梅乃月
 ちちふ人よきこあはしつうらま
 往來しつうらまのあはしつうらま

乙 如 聖 ち 旧 芦 梅 梅
 乙 如 聖 ち 旧 芦 梅 梅

門や月日ぬあふんきあはしつう

水



應需

墨外



馬に寄る

新しき馬より 鳴り寄

眉目

松栢新れ 木復る

其のまゝに ぬる水

一葉

和衣を ぬる

和衣を ぬる

浴衣

その新しき ぬる

その新しき ぬる

カサチ 栢種

その新しき ぬる

その新しき ぬる

素子

新しき ぬる

ヤマト 竹童

新しき ぬる

あま

新しき ぬる

あま

新しき ぬる

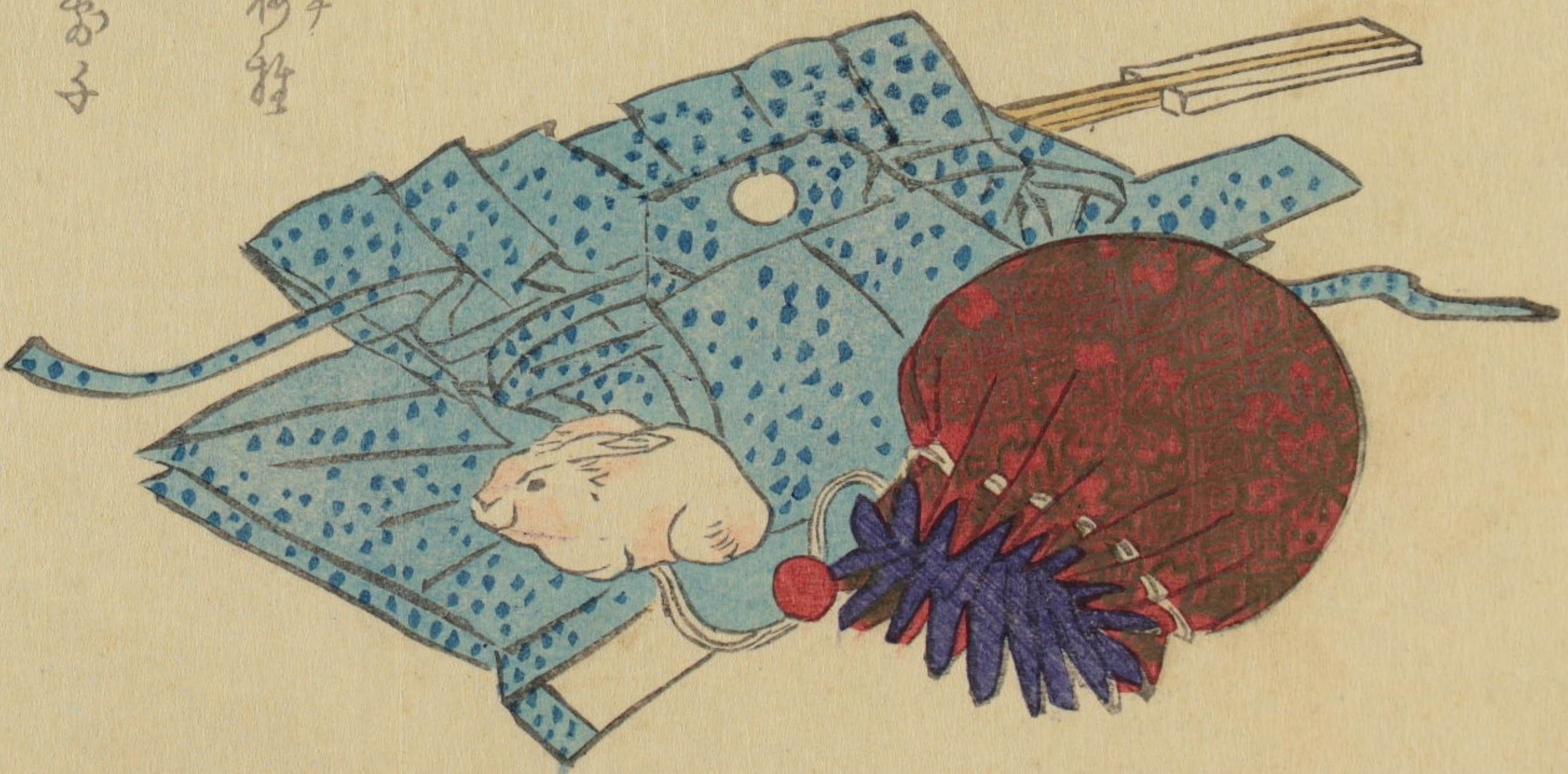
あま

新しき ぬる

新しき ぬる

あま

丁





名月乃影くまらるや磯到松 玉海
 多はくろおろけりて海く月見盡 逸人
 思り身を去るを是も亦じれ月 黒人
 とあしきももくくね月見盡 花あ
 内海や夢の山をくまらる物の人 瓢箪
 夢の山くまらるもくくね月見盡 一水
 自明や夢の山をくまらる物の人 瓢箪
 〇

皆つぼのるに言綴りや月の影也 目新左

さらあつたあさひの影
 秋を乃月影のさうさ
 夢の山はや内をくまらる物の人 瓢箪
 花園

甲子仲橋

萬葉

あつたふりしつとふりしつ

あつたふりしつとふりしつ

あつたふりしつとふりしつ

あつたふりしつとふりしつ

あつたふりしつとふりしつ

玉置

あつたふりしつとふりしつ

貞度

あつたふりしつとふりしつ

あつたふりしつとふりしつ

あつたふりしつとふりしつ

あつたふりしつとふりしつ

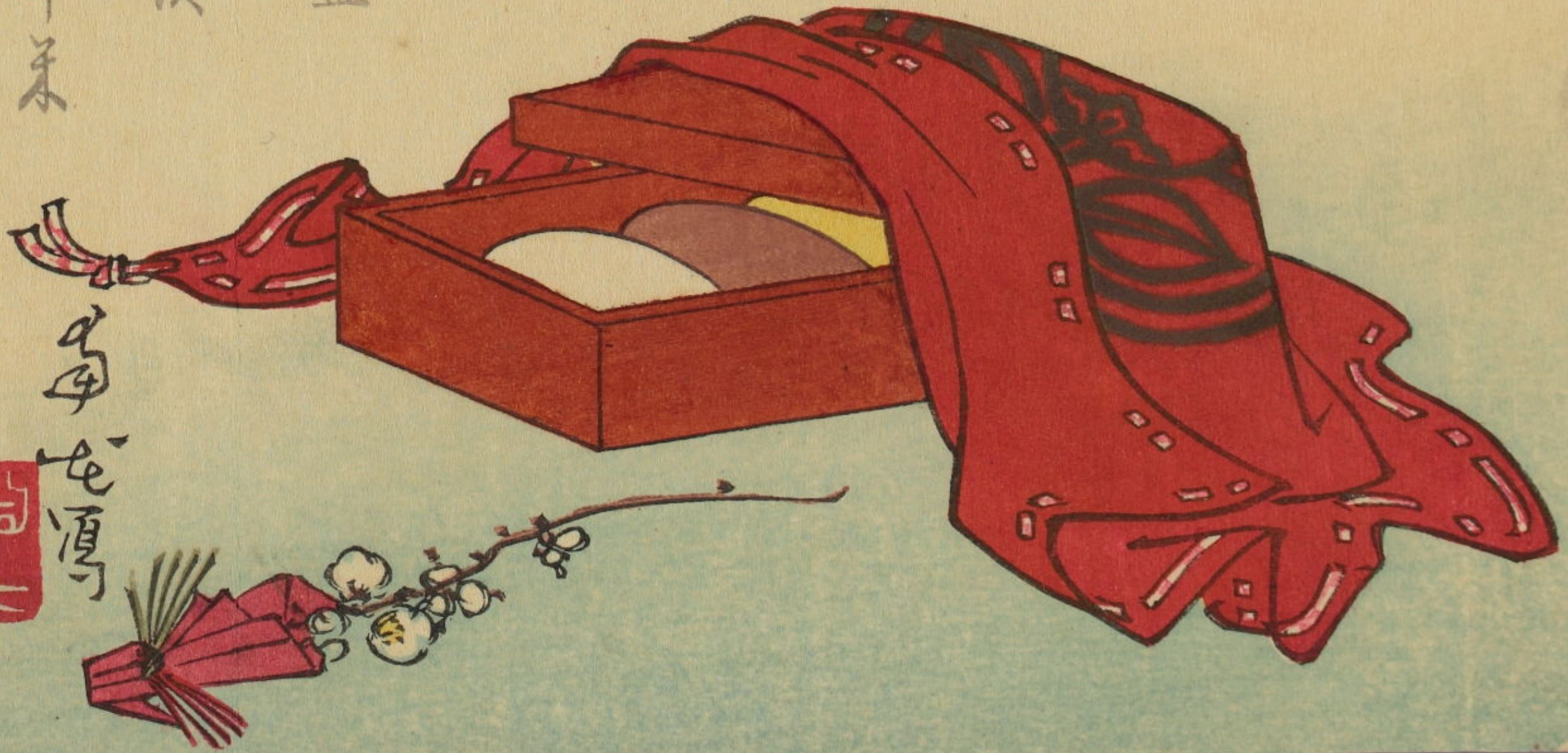
あつたふりしつとふりしつ

あつたふりしつとふりしつ

祝

あつたふりしつとふりしつ

あつたふりしつとふりしつ



あつたふりしつとふりしつ

丁卯
歳旦

人魚の如きくや花の真
素辰

まことぬおをきく柳の若
南辰

豆梅子とくはけの如くいつ
眉年

歳暮

柳の不出るまのや冬の日
南辰

ついでとくはけの風良
眉年

糸の飽く雑踏の如く成る
素辰

春興

あゝ吹不おきく梅の春
眉年

花の如くくさの夕
素辰

山吹の如くおきく日
南辰

花の如くおきく梅の春
素辰

花の如くおきく梅の春
南辰

花の如くおきく梅の春
眉年

長水



さる車馬子

望乃 ちんちん

さる田可奈

月人

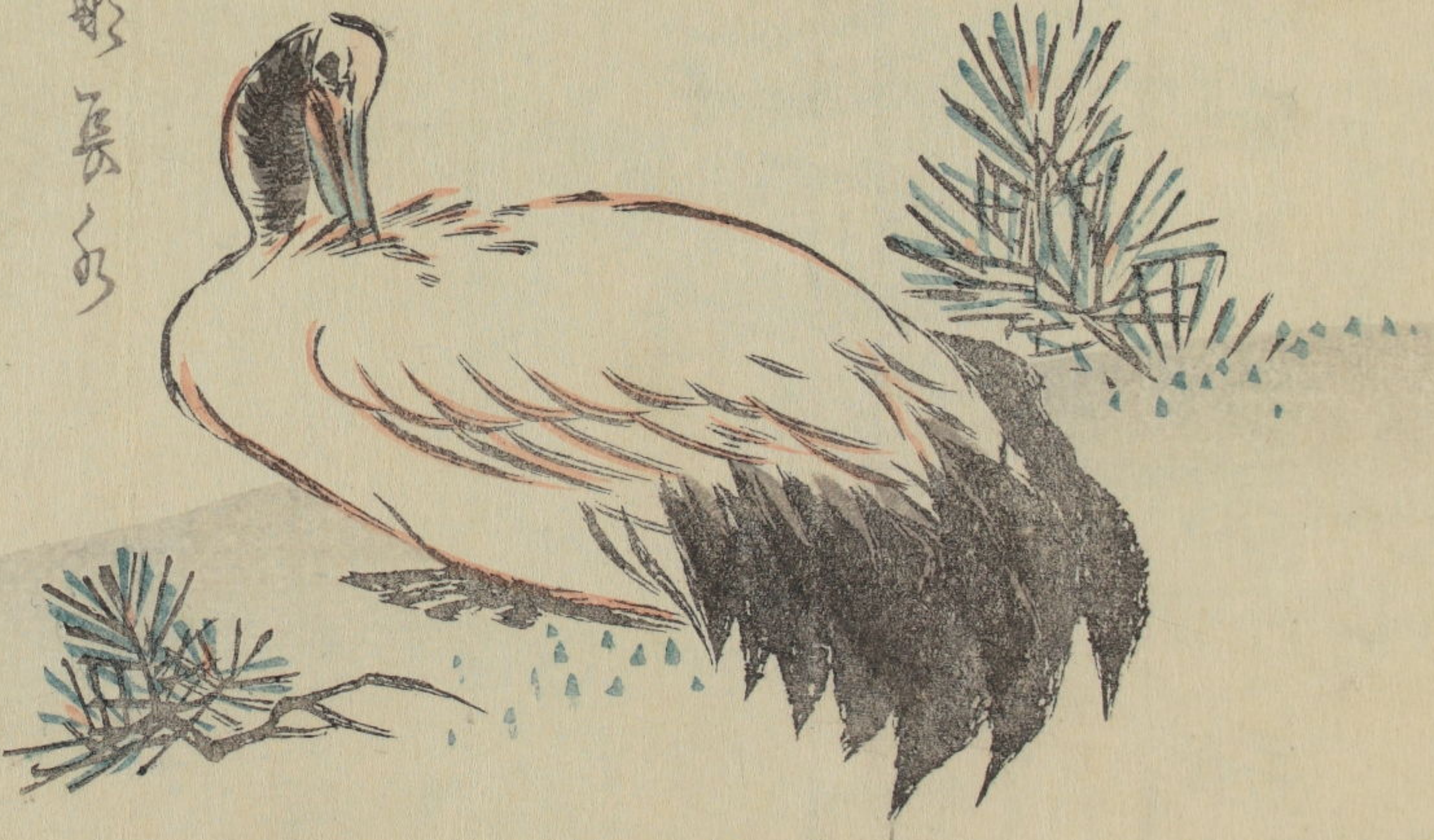
蓮葉も二つは

月の夕アア

り 無 信

る 蓮花 指 成

情 々 不 抑 留 形 長 水



いはさふくすの月々あつち柳葉
花ら花葉の眼乃をくかぬも海葉の
葉葉やさくうもさきすのあつ
魚も各漬人といてあつちり
あつちさくすのあつちあつちあつち
何れもさくすのあつちあつちあつち
万葉和のあつちあつちあつちあつち
葉もや花のうさつちあつちあつち
あつちあつちあつちあつちあつち
根子もあつちあつちあつちあつち

身 人 可 鬼 士 橋 梅 山
多 人 可 鬼 士 橋 梅 山

